

東北海区沿岸水温予報(2005年)

海域	経過 (11~1月)	現況(1月下旬~2月上旬)	見通し (2~4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	12月定線観測結果 津軽海峡(尻屋線)の最高水温は、表層、50m層、100m層とも並み。水塊深度がやや深め、津軽暖流の張り出し位置は、やや東偏。 定地水温 11月:やや高め 12月:やや高め	定地水温 1月下旬から2月上旬 平年並み~やや低め	津軽暖流域の水温は、やや高め。 津軽暖流の東方への張り出しは、平年並み~やや東偏。	2月の対馬暖流の流勢は、なほはだ強めとなっており、前年夏季より強めの傾向が継続している。 2月の津軽海峡東口の東方付近の表層、50m層水温が、昨年同期とほぼ同様の水温となっている。	
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水七発表)	11月 表面:黒崎沖合15~50海里で1.5~2°C程度低め、トクヶ崎沖合20海里付近から椿島沖合10~40海里付近にかけて1.5~3°C低めの他は概ね平年並。 100m深:トクヶ崎沖合50海里付近、尾崎沖合50海里付近、椿島沖合0~10海里では平年並、その他の海域では概ね3~8°C低め 12月 表面:黒崎沖合30~50海里から尾崎沖合40~50海里にかけて1~3°C程度低めの他は概ね平年並。 100m深:黒崎沖合30~50海里から尾崎沖合40海里にかけて1~4°C程度低め、尾崎沖合20海里から椿島沖合30~50海里にかけて1~2°C程度高めの他は概ね平年並。 1月 表面:黒崎沖合0~40海里で平年並~1°C程度高めの他は、概ね1~6°C程度低め。 100m深:本県沖合全域で2~6°C程度低め。	表面 黒崎沖合0~6海里で平年並の他は、概ね1~6°C程度低めとなっている。 100m深 黒崎沖合0~8海里で平年並の他は、概ね1~5°C程度低めとなっている。 親潮系冷水が県中部から県南部に接近している。	沿岸北部、沿岸南部で平年並からやや低め、沿岸中部と沖合ではやや低めで推移する。	ハイブリッド型水温予測(岩手県では偏差持続モデルを採用)により1ヶ月後予測を行った結果、沿岸北部、沿岸南部では平年並、沿岸中部と沖合でやや低めとなった。 また、今後も親潮第一分枝の沿岸中部への接岸傾向は継続すると判断した。	イサダ漁の解禁が2月24日となった。岩手県の割当量は21,000トン 魚群探知機により確認されたイサダ魚群は、平年よりも沿岸に分布していた。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水七発表)	11月は、表面では平年よりやや低め~やや高め、100m深では南部沖合海域で平年よりやや高めの他は概ね平年より極めて低め~やや低めであった。 12月は、表面では北部・南部海域で平年よりやや高めの他は概ね平年並となった。100m深では38°30'N, 142°10'E付近に10°C以下の冷水が分布し、この海域を中心に平年より極めて低め~やや低め、北部・南部海域では平年よりやや高めとなった。	<2月上旬> 表面、100m深とも142°E以東の北部・南部沖合海域に5°C以下の親潮系冷水が分布し、この海域を中心に平年より極めて低め~低めとなった。142°E以西の沿岸海域は概ね平年並となった。	親潮系冷水の波及する沖合海域では平年よりやや低めで推移する。 沿岸海域では平年並で推移する。	「宮城県沿岸の海況予測モデル」による予測を実施。類似年は存在しなかった。親潮第一分枝の南下速度が速く、今後も継続して親潮系冷水が波及すると考えられる。	・津軽暖流から分離された暖水が1月下旬以降、岩手県~宮城県沿岸を南下。 ・2004年11月以降、カケイソが好漁(昨年比12月:21倍, 1月:22倍)。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	11月:沖合からの暖水波及がみられたが、本県沖距岸50海里より灘側では親潮系冷水の影響が残り、水温は平年よりやや低めとなった。12月:暖水が接岸し、本県海域は広く黒潮系暖水に覆われた。下層に親潮系冷水が残るところもみられるが、水温は平年並みとなった。1月:暖水は解消し、降温がすすんだ。黒潮系暖水の勢力も弱まり、水温はやや低めとなった。	本県沖50~70海里付近に親潮系冷水の南下がみられ、それより灘側では先月と同様の単調な海況であるもののやや降温し、水温は平年よりやや低めとなっている。	期間全体にかけて昇温傾向となる。水温は平年並み~平年よりやや高めとなると予想される。	距岸50海里以沖には親潮系冷水の波及がみられるが、2月中旬に入り黒潮続流域の北上とともに灘側に黒潮系暖水の波及傾向がみられる。自己復帰モデルによると4月まで水温は上昇傾向がみられる。4月時点の50海里以内の予測水温偏差は、距岸灘側は平年並み~やや高め、沖側は平年よりやや高め~高め。	
常磐南部 ~鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	11月~12月:黒潮系暖水の影響により、今年当初以降の冷水傾向が緩和し、12月には100m深で「ほぼ平年並み」となった。 1月上旬:黒潮系暖水の影響が継続し、「平年並み」から「やや高い」となった。鹿島灘には、水深100~150mの薄い暖水舌が形成された。	1月下旬~2月上旬:親潮系冷水が、沖合142°30'E付近を36°30'付近まで南下し、そこから冷水が沿岸に波及し、沿岸部は「低め」~「低い」となった。鹿島灘の暖水舌は水深50~100mと勢力が弱い。	2月~4月:常磐南部は概ね「低い」~「やや低い」、鹿島灘沿岸部の表面は「平年並」、50~100mは「やや低い」~「低い」、犬吠では「非常に低い」。6月までで、1度程度の暖水波及がある。	・黒潮は、8~12月と同様の流路をとるため、接岸傾向で、東北東への流路変動を繰り返す。黒潮が北上傾向を見せたときは常磐海域に一時的に暖水が波及する。 ・それ以外は、黒潮が接岸傾向で、親潮系冷水の南下が継続するため「冷水傾向」となる。 ・類似年解析では、1月は「暖水」、2月は「冷水」となったが、類似年は平成8年と15年であり、いずれも「冷水」年となっている。	平成16年のシラス漁は、平成に入ってから以降最低の水準となった。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部	三陸南部	常磐北部	常磐南部~鹿島灘
-----------	------	------	------	------	----------

		距岸10海里内	距岸10~70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4℃~	+4.0℃~	+6.0℃~	+2.4℃~	+4.0℃~	+4.0℃~
高い (7.5%)	+1.6~+2.3℃	+2.5~+3.9℃	4.0~+5.9℃	+1.6~+2.3℃	+2.5~+3.9℃	+2.5~+3.9℃
やや高い (20%)	+0.7~+1.5℃	+1.0~+2.4℃	1.5~+3.9℃	+0.7~+1.5℃	+1.0~+2.4℃	+1.0~+2.4℃
平年並み (40%)	+0.6~0.6℃	+0.9~0.9℃	1.4~1.4℃	+0.6~0.6℃	+0.9~0.9℃	+0.9~0.9℃
やや低い (20%)	-0.7~1.5℃	-1.0~2.4℃	1.5~3.9℃	-0.7~1.5℃	-1.0~2.4℃	-1.0~2.4℃
低い (7.5%)	-1.6~2.3℃	-2.5~3.9℃	4.0~5.9℃	-1.6~2.3℃	-2.5~3.9℃	-2.5~3.9℃
極めて低い(2.5%)	-2.4℃~	-4.0℃~	-6.0℃~	-2.4℃~	-4.0℃~	-4.0℃~